



円谷 寛議員

- 歴史民俗資料館として旧二小体育館も
- 図書館で履物を脱がなくていいように
- 多面的機能交付金事務で区の支援を
- 上水道拡張は低コストとソーラー発電を

一般質問

質 問 歴史民俗資料館の施設・展示の内容はどうなっているか。旧二小の体育館も歴史民俗資料館の一部として活用すべきではないか。

教育長 資料展示室は二部屋あり、農耕器具や民具の部屋と歴史年表、昭和時代の写真等を展示する部屋になっている。旧二小体育館は老朽化による施設劣化のため資料館としての利用は難しい。

質 問 建物は耐震補強という方法もあると思う。町には養蚕業が盛んな時代もあり、そうした展示も、町の歴史として大切なものと考えらるがどうか。

教育長 他市町村の同様の施設の例からも、歴史をたどった展示は必要だろうと考えている。資料収集には努力したい。

質 問 図書館を利用しやすいものとするため、履物のまま入館

できるようにし、子ども等が他の利用者に迷惑をかけないよう指導すべきでないか。

教育長 履物を脱ぐことで清潔な環境を維持し、足音の無い静かな空間を保つ等の効果がある。他の利用者に迷惑をかける行為があった場合は、職員による指導を実施する。

質 問 図書館には、色々勉強できる図書を用意することが重要と考える。図書館で調べれば何でも分かるというくらいのも、揃え方をすべきではないか。

教育長 図書については、町図書館資料等収集方針に沿った蔵書収集や他館及び、県立図書館との相互貸借を利用し、幅広い利用者ニーズに応え、より的確で正確な情報提供に努めている。

質 問 多面的機能交付金事業の事務作業は、農家には不得意な人が多いため、交付金が

取得できない地区が出てくる心配がある。町は臨時職員を配置して、その事務補助をすべきではないか。

産業課長 多面的機能交付金は、地域にとって非常に有効な制度である。各地域の活動組織設立に向けた準備や事務について積極的に支援したい。

質 問 各地域にいる町職員を頼りにするのではなく、しっかりと人員を確保すべきである。町が事務作業を行うべきと考えるがどうか。

町長 その地域の一員として、たまたま職員が行っている地域もある。もちろん強制したことはない。今後、町としても事務的支援を検討する。

質 問 第5次上水道拡張事業による水道料の値上げが懸念される。浄水コストを抑えるための努力が求められるが、その配慮はなされているのか。

水道料金は給水サービスの対価であるため、事業全般の費用原価を精査するとともに、省エネ、低コストで安定処理が可能な施設を検討したい。

町長 水質の浄化方法には色々な手法があるが、それぞれについてのコスト意識をどう考えているか。

上下水道課長 旭町浄水場が老朽化しているため、新導・排水管を計画している。構造物のコスト低減を念頭に計画したい。

質 問 大量の電力を消費する事業なので、施設内の用地等を活用し、ソーラー発電に取り組む考えはあるか。

上下水道課長 全国的にも多くの例があるが、設置コストが高いという課題がある。新施設は低炭素、地球温暖化対策への貢献が期待されるため、先進事例を参考とし、検討を重ねたい。



畑 幸一議員

- 町創生戦略について
- 町民参加の提言意見の受入れはあるか
- 思い切ったかじ取りはあるのか
- ふくしまDCでの情報提供どうするか

一般質問

質 問 町創生戦略にかかる課題として町づくりの創意工夫が強く求められ期待されるが、町民参加による提言、意見など要望を受け入れる対応策の考えはあるのか。

総務課長 今年2月に「鏡石町まち・ひと・しごと創生総合戦略本部」を設置した。総合戦略策定にあたっては第5次総合計画策定時と同様に、議員の皆様をはじめ、様々な方から多様なご意見をいただき、そのご意見やご要望を取り入れた総合戦略を策定することとしている。

質 問 町創生戦略の策定において、新しい事業計画と思い切ったかじ取りの施策はあるのか。

総務課長 東京一極集中の是正、若い世代の就労、結婚、子育て支援、地域の特性に即した地域問題の解決策を図り、自立的で持続的な地方創生を進めていく必要があると考えている。

質 問 企業誘致活動の現況をどう対処しているのか。状況は高いハードルと思われるが、見直しを図る方策はあるのか。

町長 現在、町が所有する造成済の用地はない。駅東第1土地区画整理事業地内での準工業地域、さらには既存の工業団地内の民間の未利用地のPRそして国・県の補助金制度の既存企業への情報提供に努めている。

質 問 駅東地区の準工業地域について、リースによる企業誘致等は考えられないか。

町長 駅東については、27年度に1工区分がほぼ完了となる。その後の計画についてはどうするかについて、今後議論する必要があると考えている。

質 問 福島デイスティネーションキャンペーンについて、町として観光情報をどのように把握し、提供しているのか。

産業課長 花が主要なテーマの一つであり、町では桜やアヤマ等の観光素材を県に提供している。その他、岩瀬牧場、農業型体験観光として田んぼアート事業も提供しており、それが載ったガイドブックが全国各地に配布される。

県でも風評被害対策として力を入れている。町にも宿泊施設があるので、その効果は享受できるものと考えている。

質 問 県や須賀川市ではスタンプリーを実施しているが、町ではどうなのか。

産業課長 県や須賀川市ではスタンプリーは須賀川、スタンプラリーは須賀川、

質 問 若い世代を対象にしたニーズに合ったPR、イベント等、参加を促す誘客については、どのような状況か。

産業課長 今回新たに企画した熱気球から桜を眺める、桜フライトや田植えイベント等、体験型観光で若い世代や親子にPRしたい。

JR東日本とのタイアップハイキングや、田んぼアートの新デザインを楽しみに待っている方が、多くいると聞いている。今後も継続するように、おもてなししたい。

質 問 リピーター向けに、町の魅力をどう発信するかのPR活動は、どのように考えているのか。

産業課長